

**今日のキーワード** 今年を振り返るキーワード⑤『日経平均株価』26年ぶりの高水準

『日経平均株価』は11月7日に、1996年6月26日につけたバブル崩壊後の最高値（2万2,666.80円）を突破しました。12月25日には2万2,939.18円となり、1992年1月以来、約26年ぶりとなる高水準に達しました。世界的な景気回復と好調な企業業績を背景に、名目GDPは今後も+2%程度の成長が見込まれることから、『日経平均株価』の更なる上昇が期待されます。

**ポイント1**

**バブル崩壊後の最高値を更新  
約26年ぶりの水準に上昇**

- 『日経平均株価』は、11月7日の終値で2万2,937.60円となり、それまでのバブル崩壊後の最高値である2万2,666.80円を上回りました。さらに、12月25日の終値では、2万2,939.18円と年初来高値を更新しました。1月4日の終値1万9,594.16円と比較すると、約17%上昇したことになります。

**ポイント2**

**名目GDPは過去最高額に  
デフレからの脱却**

- 『日経平均株価』が堅調に推移した背景として、世界的な景気回復により輸出が伸びている他、投資も活発化しつつあり、それらを受けて企業業績が堅調となったことがあげられます。
- さらに名目GDPの規模が、足元では2017年7-9月期で549.2兆円となり、20年前のピークを超えてきたことも大きな背景です。物価の動きを総合的に示すGDPデフレーターは、2014年以降概ねプラスで推移し、「デフレではない」状況となっています。



**今後の展開**

**設備投資と雇用者報酬の改善で上昇余地**

- 今後も名目GDPは前年比+2%程度での成長が見込まれ、「デフレではない」状況は続く予想されることから、『日経平均株価』は上昇すると見込まれます。
- さらに、「デフレではない」状況から、「緩やかなインフレを伴う回復」に移行することができれば、名目GDP成長率は更に高まり、『日経平均株価』の一層の上昇が期待できます。そのためには、企業の設備投資が継続し、それが雇用や賃金を通じて雇用者報酬の増加につながる事が重要です。この動きが本格化することにより、株式市場は新局面に移行することができ、『日経平均株価』は十分に上昇する余地があると考えられます。

**ここも  
チェック!**

2017年12月27日 今年を振り返るキーワード④『地政学リスク』

2017年12月26日 今年を振り返るキーワード③『AI』と『EV』～加速する技術革新～

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。